

笑顔を求めて今日もゆく



あわ 栗 貴章
ののいち 野々市市長(石川県)



祭りにて獅子頭を持つ筆者(写真中央)

「何をしている時が一番楽しいですか」と市内の小学生から質問を受けました。「みんなと、いろんな人とお話をしているのが楽しいなと思います」とお答えしました。人と話すこと、特に人の笑顔を見られる時が本当に楽しいです。

ですから、人が集まるイベントやお祭りも好きで、そこに並ぶ屋台の食べ物や流れる音楽に、歌と踊りも大好きです。平成19年の市長(当時は町長)就任以来、毎年各町内会の夏祭りや秋祭りに参加させていただいています。今年はコロナ禍で皆さんの顔を拝見することができず、寂しく感じて

いますが、また笑顔でお会いできるように対策に取り組んでいます。

「市民協働」皆で考え、創り上げる

平成23年11月11日、県内11番目の市として野々市市は誕生しました。前年の国勢調査で人口が5万人を超え、町から市へと念願の単独市制を果たすことができた時、うれしさはもちろんのこと、先人への感謝の念や、「町」が変わることへの少しの寂しさ、そして未来の野々市の姿など、いろいろな思いが駆け巡りました。

町から市になることで、市民の皆さんが自分のまちにこれまで以上に自信と誇りを持つてたいいなと考えました。そのためにもどうすればよいか、そこに住む人自らがまちづくりに関わり、創り上げていけば愛着も湧きます。そこで、市民と行政が力を合わせて取り組むまちづくりの基本、「市民協働」を進めることにしました。

本市は、石川県のほぼ中央に位置し、山・海のない平坦地で、東西4.5km、南北6.7kmのコンパクトなまちです。コンパクトなまちだからこそ、市民と行政の物理的な距離はもちろん、市民の声に耳を傾け、しっかりと対話ができる関係を築くことができます。何でも行政が主導するのではなく、ある程度は市民側からの動きを期待する姿勢でいます。多少時間は掛かりますが、自分たちで考え、自分たちで取り組



北国街道野々市の市

む事業は、達成感や満足感もあります。

来年は市制施行10周年を迎えます。市制施行時に種をまいた市民協働の取り組みが着実に成長し、今では大きな実を付けてくれています。その一つに「北国街道野々市の市」という事業があります。本市の本町地区の一部に残る旧北国街道を中心として、地域住民をはじめ、学校、各種団体、行政が連携し、協働という形で地域活性化を推進するイベントです。当日は、街道沿いに出店が並び、舞台ではコンサート、広場では獅子舞が繰り広げられ、多くの人々が訪れます。お祭り好きの血が騒ぎ、毎年一緒に楽しませてもらっています。獅子頭を持たせていただくこともしばしば。



「1の1NONOICHIじょんからフェス」にてDJに挑戦する筆者（写真中央）



パオの下で本を楽しむ親子（学びの杜ののいち カレード）

人と交わることがエネルギーに

私自身、人と交わることが元気の源なので、人と交わって楽しめる場所、それぞれの力を発揮して輝ける舞台をつくりたいと思っています。

平成29年、図書館と学習センターの複合施設「学びの杜ののいち カレード」が誕生しました。「声の漏れる図書館」というと驚かれるかもしれませんが、「カレード」の館内はにぎやかで、子どももの泣き声や聞こえたり、親子で一緒に声を出して本を読む姿も多く見られます。子どものコーナーがあれば落ち着くという市民の声を反映させ、本市出身の米林宏昌監督のイラストに包まれるパオを設置するなど、面白い存在になっています。

そして平成31年には「にぎわいの里ののいち カミノ」がオープンしました。まちづくりの拠点となる市民活動センターおよび公民館からなる公共棟と、食堂、物産館、観光案内所などからなる民間棟「1の1NONOICHI」とい

う二つの施設で構成されています。オープン以来、フリーマーケットやマルシェなど、多くのイベントが開催され、かつての市を思わせるにぎわいを見せています。コロナ禍にあつては、苦境に立つ飲食店を支援するため、いち早くテイクアウトやドライブスルーにも取り組み、それに市民の皆さんが応えてくれたことは本当にうれしかったです。

ナンバーワンもオンリーワンも一歩からという思いを込めた「1の1」には、シェアキッチンやシェアオフィスを設けています。夢を持った人が野々市をスタートに全国に羽ばたいてほしいと願っています。

楽しむことが一番

趣味を一つ挙げるのは難しいところで、いろんなことに興味があります。性格を一言で表すと「陽気」ですかね。歌を歌うことも聞くことも好きです。子どものころに、大工の父親が歌を口ずさみながら仕事をする姿を見ていたことがきっかけかもしれません。よく昭和の歌謡曲を口ずさんでいますが、若い職員がキョトンとする顔を見るのもまた楽しいですね。

職員にも楽しんで仕事をしてもらいたいと思いますし、私も職員とのコミュニケーションを大切にしています。時間があれば、庁舎内のいろいろな課を回って話をしています。おかげで秘書室の職員が私を探し回



国際優秀つばき園認定報告の様子（野々市中央公園「ののいち椿館」にて）

る光景は日常茶飯事となっています。健康管理の一環としては、1日1万歩以上を目標にウォーキングをしています。歩く生活に慣れてくると、歩けない日はなんとなく調子が出ない。そんな気がします。やはり続けること、習慣というのは大事ですね。

これからの時期、野々市の市花木である「椿」がまちを彩り、楽しませてくれます。野々市中央公園には約200品種、約800本もの椿が植えられた「椿山」や厳選した椿を展示した「ののいち椿館」があり、本州で初の「国際優秀つばき園」に認定されました。皆さんにもぜひお越しいただき、楽しんでいただければうれしく思います。